

タイム・ジョブ・トップヤクザ 第一編

第一章 現代は極道には生き辛い

俺の名前は盛田和正、錦岩町を取り仕切る盛田組を率いていた元組長だ。俺の組は最盛期にはおよそ300人の組員がいた。しかしここ最近では暴対法の締め付けが厳しく組員が減り続け解散直前には15人にまで減った。さらに店からの守り代の収入も限りなくゼロに近くなりやむなく解散したのだ。

盛田「はあ。何かいい仕事ねえかな。俺みたいな極道には一般企業は無理だもんな。」

そんな事を考えながら日雇いの仕事で食いつなぐ毎日。組長時代の貯金は赤字の補填で使ってしまった財布はすっかりスッカスカだ。

盛田「久しぶりに来たけどやっぱり賑やかだな。」

懐かしさを感じながらかつての縄張りである錦岩町を歩いていると気になる看板があった。

盛田「タイム・ジョブ 錦岩町!？」

店の看板の下にはポスターが。

「現代は生き辛い、そう思ったことありませんか？タイム・ジョブでは縄文時代から平成31年4月30日までの好きな時代にタイムスリップして色々な仕事ができます。タイムスリップ先で手に入れたお金は現代のお金に両替できるから安心。タイムマシンの利用料はどの時代に行っても往復1000円。1度のタイムスリップで滞在できる時間は24時間、一度現代に戻れば引き続きその時代に滞在可能。昔の時代でお金を稼いでみませんか？」

第二章 店の中での出来事

気が付いた時にはもう俺は店の中にいた。

盛田「あの、僕は盛田組という極道組織の元組長なんですけどそれでも働けますか？」

店員「ええ。過去の世界で働く意志があれば誰でも働けますよ。」

盛田「じゃあ戦国時代にタイムスリップさせてくれ。足軽として戦に参加したい。」

店員「わかりました。タイムマシン利用料として1000円をいただきます。」

盛田「少し痛い出費だな。はい、あと過去の世界で稼いだ金は現代のお金にしてくれるんだよな？」

店員「はい。まず歴史警報付きの小型の端末をお渡しします。タイムマシンに表示される QR コードを端末で読み込むとタイムスリップが始まります。現代に帰還した際にお返してください。端末の情報によりその年代の為替レートに基づいて両替します。」

盛田「歴史警報！？」

店員「本能寺の変や関ヶ原の戦いなど有名な歴史を変えようとするとうります。鳴ったら歴史を変えないように気を付けてください。ピッピッピが小警報、これはちよくちよく鳴りますが変えてもほとんどの方は気がつかないので長押しで止めて無視しても大丈夫です。ピーピーピーが中警報、有名な歴史を変えそうになると鳴ります、止めた後は変えないように気をつけてください。ビビビビビビビビが大警報、鳴るとコールセンターの人しか止められません。鳴った理由が知りたければ電話のマークをクリックしてコールセンターの方にお聞きください。」

盛田「分かりました。ちなみに足軽とか武将とかになり戦うことは可能ですか？」

店員「足軽なら戦の度に募集するくらい必要としてるので、なるのは簡単かと。基本的に募集足軽の給料は日払いです。何人の敵を倒したかの証拠が必要です。鎧や槍の先端などを集め証拠を見せればいいでしょう。証拠の方法は独特な方がわかりやすいです。」

盛田「分かりました。じゃあタイムスリップして働いてきます。」

店員「はい。それでは4番搭乗口にお進みください。」

盛田「はい。」

お試し版はここまで。フルバージョンは製品版をご購入ください。